

登別市中央地区まちづくり協議会 第9回ワーキンググループ 議事録

開催概要

日 時 令和5年12月19日(火) 18:00~19:20
場 所 登別中央ショッピングセンターアーニス 2階 あえるSTATION
出席者 ワーキンググループ委員 別紙のとおり
事務局・オブザーバー 別紙のとおり

議事内容

1 開会

事務局（総務部本庁舎整備推進グループ）が進行

2 WGにおける協議事項について

【事務局】

○本日のワーキンググループ開催の目的について

ワーキンググループにおいては、中央地区の活性化に向けた取り組みとして、1つ目「現庁舎、アーニス周辺的环境整備」、2つ目「中心地にある商業施設の活性化」、3つ目「現庁舎跡地の具体的な利活用方法」、この3項目を協議していくこととなり、9月以降協議を進めていただいた。その中で、中心地にある商業施設の活性化を先行して協議することとしており、具体的には令和8年度に市役所新庁舎が完成し、アーニス内にある観光経済部が抜けた後の利活用について先行して協議を行ってきた。これまでの協議の中で図書館をアーニスの空きスペースに移転するという意見があり、課題点はあるものの肯定的な意見があった。そこで、今後、協議会として取りまとめる提言書がより現実的なものとなるように、図書館に詳しい方から意見を伺うこととなり、今回、図書館協議会の委員の方と市立図書館の館長に来ていただいた。

本日は、図書館長に「図書館の役割と機能について」という内容で講演をしていただき、その後、図書館協議会の委員の方に、仮に図書館本館をアーニスに移転した場合の良い点・課題点について説明していただく流れで進めさせていただきたい。

【図書館長】

○「図書館の役割と機能について」

- ・「豊かな時間を図書館で」登別市立図書館のキャッチフレーズ

このキャッチフレーズに図書館の本質があるのではないかと考えている。図書館をどのように使用するかは利用者の自由で、その人により様々な利用方法がある。そのため、図書館は利用者によっていかようにも姿を変えと言われており、その広さや深さが図書館の魅力だと言われている。

・図書館とはどんな施設なのか

公共図書館とは 図書館は単なる図書・資料の集積体ではなく、将来においても完全に「電子図書館」に置き換わることはないと言われている。図書館の目的は、図書館法の第2条に記載されているとおり、「教養、調査研究、レクリエーション」の3つとされている。そして、図書館の役割と機能については、6つの機能があると言われていて、それは収集・整理・保存・提供・集会や行事・利用に関する指導である。また、公共図書館の3原則に「予算・司書・全域サービス」があり、全域サービスとは市内のどこに住んでる方も利用できるということであり、本市では、分館・配本所・こぐま号・移動図書館車を走らせて全域サービスを提供している。

次に、図書館学者の椎名六郎氏は、公共図書館は地域のサービス機関であるとともに、情報センター・文化施設・社会教育機関であると述べているが、近年は高齢者や失業者などの居場所としての福祉施設としての役割もあると指摘している。

・図書館の3要素から

図書館には3つの要素があり、それが「人、資料、施設」である。図書館には経験を積んだ司書（人）が必要で、また、古くなった本も保存、蓄積することが重要（蓄える文化）と言われている。さらに、図書館という施設には、失業者や高齢者などが来るセーフティーネットとしての役割や、最近特に言われるが、市民が集い交流し活動する場所等まちづくりの拠点としての役割が出てきている。

・最近の図書館に求められているもの

空間の質として、居心地のいい空間、滞在型の図書館、多様なニーズを満たすために、ゆとりある空間等というのが重視されている。例えば、カフェを併設している図書館等が増えていたり、親が子供に絵本を読み聞かせたり、市民が集い語り合える空間を設けるなどである。

また、わかりやすく本を展示できる空間、中高生などが自習できる場の提供、十分な蔵書を構築できるスペースも必要になる。

最後に、市民の生活課題の解決、自己実現を図書館が資料や情報の提供によって支援するとともに、地域の課題解決の支援や未来を支える人づくりを図書館が情報面で支えるということが強く言われている。

・登別市立図書館めざすもの

登別市立図書館の目指すことについて、非常に簡単な言葉でわかりやすい言葉で伝えようと、平成30年に「登別市立図書館の目指すもの」という冊子を作成した。ここに大体の我々の考えが盛り込まれている。

【図書館協議会】

○仮に図書館本館をアーニスに移転した場合の良い点・課題点について

良い点

- ・図書館職員の労力軽減

- ・駐車場のスペース確保
- ・ゆったりとした配架が可能
- ・図書館が目指すべき「サードプレイス」としての位置付けが可能

課題点

- ・十分な面積が確保できるのか
- ・アーニスの耐震性能、耐過重
- ・アーニスのバリアフリー化
- ・図書館の運営方法として指定管理者制度の導入について
- ・図書館の非正規職員について

○質疑

(委員A)

時代とともに、図書館の利用者も当然変わってきていると思うが、例えば10～20年前と比べて利用者はどうなっているのか。当然多くの人に図書館を使用してもらいたいと考えていると思うが、集客につながるような案はあるか。

(図書館長)

本市を含め、全国的に減少している。また、室蘭市は本館が新たに完成して、利用者数が増加しているので、本市も施設設備が充実すれば大分改善すると思う。

(委員B)

図書館の現状や課題を教えていただいて、すごくいい話だった。ただ、ワーキンググループの委員はアーニスに図書館を移転するという話は、前々回くらいに与えられたお題で、図書館協議会の委員もこの話を晴天の霹靂だと言っている。ここでワーキンググループと図書館協議会とで対立構造をつくられると、どのように議論していけばいいのかという感じになる。ここは事務局にきちんと整理してほしい。

(委員C)

市役所跡地に図書館を新築するという話も出てくるかもしれない。

(事務局)

今回いろいろお聞かせいただいた部分を踏まえて、次回までに事務局で整理をして、皆さんとまた協議をさせていただきたい。

(委員D)

今回は何かを決めるために集まっているわけではなく、いろんな可能性を検討していると思っている。ある意見が出てその意見を可能とするなら、こんな課題があるけど、どのようにすれば可能になるかという検討をする。そのために専門家の方々の意見を取り入れるということだと私は思っている。

(事務局)

事務局の意図としては、市内でまちづくりに携わっている方から、ここの空いたスペースに図書館を移転するという意見があり、ワーキンググループの検討材料の1つとして紹介をさせていただいた。ワーキンググループで協議をした中では、図書館をアーニスに移転するということに課題はあるものの肯定的な意見があったことから、現実的に移転が可能なのかどうかを協議するために、今回図書館に詳しい方にご参加いただいた。

(委員E)

現実にもうするならば実現できるのかという議論をしたい。今日は課題の整理のところまではしっかりできたので良かった。

(委員F)

まずどのようにするのか決めないと、具体的な話になっていかないと思う。

(委員G)

市で青写真みたいなものはないのか。市民にいろんな声を聞きながら協議していますと進めているけど、結局、いろんな人に迷惑をかけることになると思う。私も最初は一生懸命いろんなことを考えようと思っていたが、途中でいろんな人と知り合えるからここに参加してもいいかなということに切り替わってきた。何かの方針がないと永遠に議論するのかなというように思ってしまう。

(図書館協議会委員)

ある程度提案が固まった時点で、今回のような話を持ってきてほしい。

(委員H)

ワーキンググループとしてもう結論を出すということか。

(事務局)

私の伝え方で足りない部分があったんだと思うんですけど、当初は、今年の12月までに提言書を取りまとめる予定で進めていたが、もう少し時間をかけて、提言書を取りまとめるということになる。

(委員I)

ワーキンググループで提言書を取りまとめたら、それで決定ということか。

(事務局)

ワーキンググループで提言書を取りまとめて、その後、協議会に諮って最終決定し、市に提出するという流れになる。その提言書を受けて、市で最終的な決定を出すということを想定している。

(委員J)

協議会の方針を決めて、その方針に対する意見を考えてもらうという手法の方がいいのではないか。

(図書館協議会委員)

図書館を建てる時には、図書館単独ではなく複合型で考えるといいのではないか。

また、登別らしく観光と図書館を結び付けて、魅力ある施設になればいいかなと思う。

○次回のワーキンググループ開催に向けて

いろいろお話をお聞きしたので、次回は進め方も含めて考えさせていただきたい。また、進め方等で何かご意見等あれば電話やメールでご連絡いただきたい。

3 その他

○次回開催予定

- ・ 次回の開催は未定（協議会等と調整して決定する予定）

4 閉会

19時20分 閉会

以上